

女性社内取締役と女性社外取締役が企業の業績に与える効果
—東証一部、二部、マザーズ、ジャスダックの比較—¹

2017年12月14日

新倉博明²、瀬古美喜³

要約

本研究は、日本の東証一部、二部、マザーズ、ジャスダックに上場する企業の取締役会における女性の活躍が、企業の業績を向上させる効果を有するか分析する。その際、取締役ではない執行役、執行役員データのデータは除き、純粋な取締役会構成メンバーである女性割合を用いている。更に、女性取締役割合を女性社内取締役割合、女性社外取締役割合に分けて分析することで、それぞれがガバナンスに与える影響も分析する。

内生性を考慮した分析の結果、一部上場企業において女性取締役割合、女性社内取締役割合、女性社外取締役割合、それぞれがROEを向上させる効果がみられ、特に女性社外取締役割合は多ければ多いほど効果が高まるわけではなく、男女間のバランスが重要であることが示唆された。一方、二部、マザーズ、ジャスダック上場企業においてはそうした傾向はみられず、特にコーポレートガバナンス・コードによって女性の活躍促進が促されている二部上場企業においては、コード適用の効果はみられなさそうであった。

¹ 一橋大学商学研究科ファイナンス研究センター 2017年度第19回金融研究会発表論文

² 慶應義塾大学経済学部訪問研究員(Email: niikuraecon@hotmail.co.jp)

³ 武蔵野大学経済学部教授、慶應義塾大学名誉教授(Email:seko@econ.keio.ac.jp)